



3月2日
(土)

2024春季生活闘争勝利！総決起集会 青年・女性の力を結集！スプリングアクション



青年・女性合同学習会

青年・女性委員会は山形ビックウイングを会場に、構成組織から90人の参加者が集まり、合同学習会を開催しました。新型コロナが5類に引き上げられ、昨年に引き続き多くの方に参加していただきました。

学習会の前半では、労働局の雇用環境・均等室から丹野華子室長より「男女の賃金の差異と不合理な待遇差の禁止について」をテーマに講演をいただきました。丹野室長からは、「山形県の女性の賃金は全国最下位」ということや「なぜ男女間の賃金の格差が生じるのか」等、分かりやすく説明していただきました。

後半では、連合山形石川正樹副事務局長から「連合山形2024春季生活闘争方針」について講演をいただき、「まずは賃上げが必要だ！」ということ、「そのためには『みんなで要求してみんなで賃上げ』することが大切」と熱い訴えがありました。参加者からは、「賃上げの必要性、そのために何をすべきか理解できた」「改めて賃上げの大切さや理解が深まった」と好評な意見をいただきました。2024春闘のスローガンは「みんなで賃上げ！ステージを変えよう！」です。一人一人の力で今春闘を頑張ってください！！



山形県の賃金の状況について②～男女の賃金の差異～

項目	男性	女性
平均	219.1	180.4
差	38.7	18.4



「3.8国際女性デー」アピール

連合山形は3月2日(土)、「2024春季生活闘争勝利！総決起集会」を山形ビックウイングで開催し、女性委員会は、「3.8国際女性デー」のアピールを行いました。

受付で、春闘におけるジェンダー平等推進目標を掲げ、参加者に赤いシールを配り、決意を込めて貼ってもらい、大輪のバラを完成させました。集会では、紺野美穂委員長が「3.8国際女性デー」のアピールを読み上げ、参加者のみなさんと決意を新たにしました。



青年委員会アピール

青年委員会では、集会において、青年委員会活動のアピールを行い、春闘における決意を訴えました。受付では、「今自分達が出来ることから！」と能登半島救援カンパを実施し、集会終了後にもカンパ活動を行いました。

集会でのカンパ金は**74,951円**集約しました！ご協力くださった皆さま、ありがとうございました。引き続き、一刻も早い復旧・復興に向けて、青年委員会は最大限の取り組みを行って参ります！



「3.8国際女性デー」集会アピール

3.8国際女性デーは、「女性の政治的自由と平等のために行動する記念日」と位置付けられ、賃金・労働条件の向上を表す「パン」と、女性の尊厳・人権の確保を表す「バラ」をシンボルに、世界各地で様々なイベントや運動が行われています。

私たちも、この「連合山形2024春季生活闘争勝利！総決起集会 3.8国際女性デー アピール」において、ジェンダー平等の推進、多様性を認め合う社会の実現に向けた取り組みをさらに前進させていく決意をいたします。

今年の3.8国際女性デー全国統一行動のテーマは、「つなげよう 取り組みを高めよう 意識を」です。世界に目を向けると、北欧を中心に意思決定の場でのジェンダー平等が進んでおり、世界各国のジェンダー平等推進の取り組みは進展しています。

一方、日本のジェンダーギャップ指数の順位は下落傾向が続いており、世界各国が取り組みを進める間、日本は足踏みをしてきたと見られています。1月1日に発生した能登半島地震では、避難所運営が男性中心で、女性の声が届きにくい事例が見られました。ジェンダー平等推進の遅れは、災害リスクを広げるとの指摘もあります。

連合が、「労働組合における男女平等参画」「職場・社会におけるジェンダー平等の推進」を目標に進めている「連合『ジェンダー平等推進計画』フェーズ1」も残り7ヵ月となりました。取り組みは着実に前進していますが、さらに強化していく必要があります。連合山形でも、これまでの取り組みを検証して次の取り組みへとつなげるとともに、ジェンダー平等推進に向けて意識をさらに高めていかなければなりません。

ジェンダー平等推進は、人権を確保し、社会の持続可能性を高める取り組みです。本集会に集まった一人ひとりの行動で、年齢や性、国籍、障がいの有無などに関わらず、すべての人たちの人権が尊重され、安心して働くことができる持続可能な社会の実現をめざしましょう。

2024年3月2日

連合山形2024春季生活闘争勝利総決起集会「3.8国際女性デー」アピール

3月8日は何の日？

国際女性デーの日です！！

3月8日(金)、山形市七日町にて、女性委員会とジェンダー平等委員会による「3.8国際女性デー」の周知行動を行いました。女性委員会は「リレートーク」を行い、「3.8国際女性デー」の周知とジェンダー平等推進の強化を訴えました。弁士には、長澤愛山形市議がマイクを通して、「3.8国際女性デー」を市民に訴えました。

ジェンダー平等委員会は、女性のシンボル「バラの花」と「チラシ入りティッシュ」を配布し、「3.8国際女性デー」のアピールを行いました。



1857年3月8日N.Yの被服工場働く女性達が低賃金・長時間労働に抗議を行ったことが「3.8国際女性デー」の起源と言われています。その後1908年3月8日「パン(賃金・労働条件の向上)」と「バラ(女性の尊厳・人権の確保)」を掲げてデモを行いました。以来、この日を「女性の政治的自由と平等のために行動する日」と位置づけられ世界中に広まっています。

女性委員会・ジェンダー平等委員会メンバー

ジェンダーメモ

男女間賃金格差



正社員、正社員以外ともに男女間に賃金格差。OECD諸国と比較して、日本の男女間賃金格差は大きい。

なぜ、男女格差が生まれてしまうのか？

「男女の役割分担について社会通念・慣習・しきたりなどが強い」、賃金面では、「管理職の女性が少ない」「平均勤続年数が短い」「職種が違う」「諸手当の支給がない」等があげられます。

正社員、正社員以外ともに男女間に賃金格差。OECD諸国と比較して、日本の男女間賃金格差は大きい。

